

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しておりますが、届け出順では脇本啓喜君の順番ですが、欠席の届け出があつておりますので、順番を繰り上げて春田新一君の一般質問から行います。そのため、3人できょうは一般質問は終わりたいと思います。よろしくお願ひします。それでは春田君から行います。1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 皆さん、おはようございます。先ほど議長のほうからありました順番が早くなりましたが、質問をさせていただきます。

まず、6町合併10周年を振り返って市政全般についてということですが、3月1日に行われました市制施行10周年記念式典も県内出身の国会議員さんをはじめとする多くの御来賓の出席のもと盛大に開催をされました。本当におめでとうでございます。

また、そのあと、上対馬鱒浦での国境花火大会、実証事業でありましたが、本当にこう、天候が悪く目視はできなかつたという報告もございました。まあ屋外でする行事ですから天候に左右をされると思ひます。まだまだあきらめることなく一生懸命この事業を進めていただきたいというふうに思ひます。

それでは通告のとおり質問をさせていただきます。

まず、1点目の1であります、財部市長は5年余りにわたる市政運営をどのように総括をされて、また記念の11年目からの市政をどのように組み立てていかれるのかお尋ねをいたします。

また、合併前と合併後のよかつた面、悪かつた面、プラス面、マイナス面というのがあるのかというふうに思ひますので、そこら辺も答弁をお願いしたいと思ひます。

2つ目ですが、協働型市政への改革と創造への思いというのを語っていただきたいということですが、これも1番と同じような、同じになると答弁はなると思ひますのでよろしくお願ひをいたします。

3つ目ですが、北部の観光ルート整備と北部地域の空洞化をどのように捉えてあるのかお尋ねをいたします。

2点目ですが、教育行政全般についてということで質問をいたします。

まず1つ目、もう私これ、3回目の質問になりますが、島の中に点在する文化財を市民に広く知ってもらうための施策というのはいかなうかということをお尋ねいたします。まあ市民の皆さんが知ることによって観光客におもてなしができるというふうに思ひますので、そこら辺の答弁をよろしくお願ひいたします。

2つ目ですが、この新年度から始まります新しい取り組みであります子ども夢づくり基金の使途についてということでお尋ねをいたします。

子供は島の宝であるということをお我々大人はよく言ひますが、その子供たちのために基金を使

われるなら、本当に子供たちの夢をかなえられる資金づくりに使っていただきたいというふうに思いますので答弁をよろしく願いいたします。

3つ目ですが、この26年度から始まる新しい取り組みである対馬上地区連携型中高一貫教育が始まります。連携の目的といたしまして中高6年間を見通したカリキュラム編成、教員の相乗り授業、中高の合同行事や合同部活動などにより小規模校であっても教育水準の向上を図るとともに北部地域の発展に寄与するという事で目的を掲げられておられます。これについて答弁をお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 春田議員さんの質問にお答えさせていただきます。

3月1日の国境花火大会、できればこの秋に向けての実証実験という位置づけの中で、さまざまな花火を打ち上げさせていただきました。韓国のほうにもこちらからも写真クラブの人らに行っていていただき、その確認作業も、対馬島民もそして釜山のほうの方々にもお願いをして確認作業をしたところでもありますけども、春田議員がおっしゃられるように目視はできなかったという事の報告はあります。ただし、きのう、おとといでしたか、写真クラブの方たちの映像を見ましたら、その映像の中に、映像といいますか、写真の中に花火が写ってるということで、まあ天候が悪かったもんですから目視ということはできませんでしたが、そのような形での機械を使ってでの記録はとどめることは可能だったというふうな報告が上がってきております。

まず、では、通告にありました1点目の10周年。この10年を振り返っての部分で、私が就任してからの市政運営をどのように私自身が総括をしているのかという御質問がありました。また、今後の市政の取り組みの方向性というものについてのお尋ねだったと思っております。

まず、1期目の4年間の取り組みでございますが、これにつきましては、市政を展開していくための基盤づくり、それから環境整備の期間というふうに捉え、まちづくりについて従来の行政依存型ではなく、市民協働型のまちづくりを目指して具体的な取り組みとして地域マネージャー制度を導入をいたしました。市民の皆様には一定の御理解を頂戴し、徐々にではあるものの成果というものも少しずつ上げている状況です。地域みずからが地域のまちづくりを標榜する地域計画策定に徐々につながってきてると思っております。

また、協働のまちづくりをさらに進展させていくために、市民基本条例、それから森林づくり条例、環境基本条例を平成24年4月より施行し、市民の皆様にも積極的に市政に参加をいただく環境整備を行ってまいりました。

このような中、第1次対馬市総合計画が平成27年度で終了をいたしますが、平成28年度以降の基本計画として、第2次対馬市総合計画を平成26年から2カ年かけて作成をしたいと考えております。その計画づくりの基本といたしまして、各地域の皆様がそれぞれの課題を見出して

将来どのような地域にしていきたいのかという部分、それから地域の皆様が主体となって考え、各地域の特色を生かした地域づくり計画を作成していただきたいと考えております。

その地域づくり計画を集約をし、地域の皆様の意見が反映された総合計画としてつくり上げたいと考えております。それらの手順をやりながら、この2期目の4年間につきましては、より積極的な市政展開の期間と定め、また、自然への畏敬を持ち、潜在的なこの資源というものをあらゆる世代と産業にわたって最大限、浮き上がらせていきたい。そして笑顔があふれる島になるように、私ども行政側も、海、森林、国際ビジネス、地域コミュニティー、生ゴミという部分からなる5つの地域資源循環システムというのを今、庁内的にも積極的に展開をいたしております。

また、対馬だからこそ感じる事ができる宝というものをしっかりと磨いていけるよう外の力、島の外の力を積極的にお借りしたいと考えております。

その一環として大学との域学連携を進め、新たな価値と地域活力を創出してまいりたいと考えております。

さらに、対馬が対馬としてこの地にあり続ける限り、韓半島との交流は欠かすことはできません。雨森芳洲先生の説かれた誠信交隣の精神のもと、市民の皆様と歩調を合わせ、さらなる交流の拡大に向け努力をしていきたいと考えております。

残る任期につきましては、定例会初日の施政方針説明で申し上げましたが、ふるさと対馬を将来の世代にしっかりと自信を持って引き渡せるように可能志向で考働し、たゆまず市政の創造と革新に挑戦をし続けていきたいと思っております。

先ほど市政の創造と革新という部分についてどのように取り組んでいくのかというお話もありました。私ども行政側が今のままでいいというふうには決して思っておりませんし、常に私どもを取り巻く環境というのは変化をしております。その環境変化にしっかりと対応をしていけるように市側も市職員も全員がそうならなくてはいけないという思いは常日ごろ持っておりますけども、地域マネージャーの話も、市民の地域のお話というものを聞きながら、それを計画に組み込んでいく能力というのを私ども職員一人一人が持ち合わせる必要があるという思いでマネージャー制度を導入をしてまいりました。

まだまだこれについては成就しているとは私も思っておりません。また、一昨日、この場でも話をさせてもらいましたが、市職員一人一人がホテルという総合窓口係を担うコンシェルジュさんみたいな役割を常に持つ、ノーと言うことから物事が入ることなく、市民のおっしゃることをどのように形にできるかということから考え方を持った市政に変わっていかなくてはいけないというふうに、市職員に向けても話は常日ごろさせていただいているところですが、まだまだこれらについてでき上がっておりません。そういう意味において26年度、私どもは職員研修も力を入れていながら市政の革新というものに取り組んでいきたいと思っております。

次に、2点目でございますけども、北部の観光ルート整備について御質問がございました。

これにつきましては、北部を取り巻く観光客の動向というのは、春田議員さんも十分にもう御存じのことですので割愛させていただきますけども、観光リゾートイメージ図作成事業ということで今、取り組みをさせていただいていることは前回の議会の折も説明をさせていただきました。

今年度、観光客の入り口であります比田勝地区から観光客の関心の高い三宇田浜にいたる一帯を観光リゾートとしての整備に向け、地域住民や関係者との協働作業によってこれら地域のグラウンドデザインを検討していただく観光リゾートイメージ図作成事業を実施いたしました。

この事業の中で、計4回のワークショップを開催し、さまざまな提案や御意見を頂戴いたしました。その中で12月議会の折、春田議員からお尋ねのあった比田勝港埋立地の活用についても、国際ターミナル建設後の駐車場確保の問題もあり、ターミナル建設と連動した整備が必要といった意見が出され、駐車場機能を持ったイベント広場として整備する案が出されたと聞いております。

また、三宇田浜はレジャー施設として、キャンプ場の再整備やアウトドアのスポーツ整備、権現山はトレッキングコース整備や車道の整備、大きな目玉としては、三宇田浜から権現山頂上へのモノレール整備等の検討がその際されたというふうに聞いております。

これら地域住民の意見が反映された観光リゾートイメージというものを参考にしながら、今後、北部対馬観光ルートの整備というものを進めてまいりたいと考えております。

また、現在は日帰り客が多いということもあり、これらの観光客によりイメージを持ってお帰りいただき、リピーターとなっていただくこと。そして、滞在時間を伸ばしていただくことを目的とし、今回このように地域を絞り計画を策定をしましたが、今後の観光客の動向等を注視しながら、そのほかの地域においても検討をしてまいりたいと考えております。

続きまして、北部地域の空洞化をどのように捉えているのかという通告がっております。

これらにつきましては、先に述べましたとおり観光客、特に韓国からの観光客は伸びており、美津島町以北を含め地域が元気がなくなる中、比田勝港を北の玄関口と位置づけ、受け入れ体制の整備に積極的に取り組んでいるところであります。

北部地域の振興、活性化を図る上で、基幹産業である水産業の振興はもとより観光関連事業の誘発と支援、また自然と環境、そして対馬特有の動植物を生かした自然と共生した観光地づくりではないかと考えております。

今後は、地域住民の意向、関係団体等の連携を図り、官民一体となって振興策を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 春田議員さんの御質問にお答えさせていただきます。

まず、島の中に点在する文化財を市民に広く知ってもらうための施策はということでございます。現在、対馬に点在する史跡につきましては、国指定が7カ所、県指定等が5カ所、市指定が34カ所でございます。

市民への啓発ということでございますが、今年度、御台所門の発掘調査におきましては現地説明会を実施いたしました。また、昨年度、発掘調査を実施いたしました今屋敷家老屋敷跡の遺物の展示会を3月17日から交流センター3階で実施する予定としております。このような現地説明会、展示会等を行うことで住民への関心を高めることにつながると考えております。

次に、今年度から、未来に残したい対馬の風景と題して、文化財景観写真コンテストを開催いたしております。これは、写真を通じて対馬の文化財に興味を持っていただき文化財保護の啓発を図ったものでございます。

また、昨年度実施いたしました山城サミット対馬大会においては、金田城の防人を題材にして、鶏鳴小学校の児童に劇を演じていただき大変講評を得ましたが、この事業においても学校教育との連携を図ることで子供たちへ文化財への啓発が図られたものと考えております。

また、対馬市ホームページに文化財のコーナーを設けて文化財の紹介をしておりますほか、広報対馬においては毎月わがまち再発見のコーナーで各種文化財の紹介を行い広く啓発を図っているところでございます。

このほか、平成22年度に対馬の文化財という冊子を作成し、500円で販売しているほか、町歩き等で使える3部作のパンフレットも各所に配置して御利用いただいているところでございます。

最後に、平成22、23年度に対馬まるごとデジタルアーカイブ事業として、対馬の伝統芸能、伝統行事などをデータ保存をしておりますので、このDVDを公共施設などの玄関ホールや国内国際ターミナルの待合室などで放映することにより、多くの方々へ紹介していけないかということを考えているところでございます。

また、26年度当初予算に対馬の青少年を対象とした対馬の地理、歴史、文化、動植物、偉人などを掲載したつしまっ子郷土読本の——まあこれ仮称でございますけれども——の編集にかかる作成委託料を計上しており、市民に文化財を知ってもらうための事業を行うこととしております。

次に、4月から始まる子ども夢づくり基金の用途についてでございます。

子ども夢づくり基金の用途についてでございますが、基金の設置目的であります対馬の将来を担う子供たちの夢づくりを育成するため、子供たちを対象とした次のような事業につきまして支援を行う予定でございます。

1つがスポーツ活動に関する事業です。2つ目、文化活動に関する事業、県大会等に参加させ

ることによるスポーツ文化活動の技術向上と子供たちとの交流への支援を考えております。3つ目が地域間交流及び国際交流活動に関する事業でございます。対馬だけでなく国内外の地域の子供たちとのふれあいを通じた国際感覚を有する子供たちへの育成の支援でございます。4つ目、体験学習活動事業に関する事業です。地元の歴史や文化、産業等を体験することにより、対馬を学ぶ中で島への愛着を深め、定住促進への支援ということでございます。5つ目、離島留学に関する事業です。本土の子供たちを対馬に受け入れるためのホームステイ等の支援であります。最後に、就職及び進学活動に関する事業です。島内の高等学校への入学促進と大学進学等の保護者の負担軽減のための支援でございます。

以上、申し上げましたとおり大きく6つの事業に区分させていただいております。

それぞれの事業を詳しく御説明いたしますと時間がございませんので要点のみを御説明させていただきます。

スポーツ活動につきましては、県大会規模へのオープン参加等を新設をしております。文化活動につきましては、スポーツ活動みたいに島内において県大会等へつながる予選会がないため、自主的に県大会規模等の大会へ参加しておりましたので、この自主参加につきまして旅費の支援を行う予定でございます。また、地区等で傳承されております伝統芸能等の保存活動に対しまして活動費の支援を行う予定でございます。

地域間交流及び国際交流活動につきましては、子供たちを対象とした島内外で行われる交流に対しまして活動費の支援を行う予定でございます。

体験学習活動につきましては、農林、水産、観光、商工、保健、福祉、自然、環境等の幅広い子供たちの体験活動に対しまして活動費の支援を行う予定でございます。

離島留学につきましては、本土の子供たちが対馬市の学校に離島留学する場合にホームステイ費とか帰省に要する経費等を支援する予定でございます。

就学支援活動につきましては、主に高校生を対象とした就職及び進学活動に対する支援や島内で行われる大学センター試験、韓国語検定のために要する経費、就職祝金、これは中学生も含まれますが、これらの支援を行う予定でございます。

今後の進め方につきましては、市内の公立学校に対する概要説明——校長会、教頭会ではもう概要は説明しておりますが——及び広報による周知を図ってまいりたいと考えております。

また今後、基金を活用したさまざまな事業を展開する中で、いろいろな問題点等も出てくることと思っておりますが、冒頭に申し上げましたとおり対馬の将来を担う子供たちの夢づくりを育成するために、より充実した基金の活用を図ってまいりたいと考えておりますので議員の皆様におかれましても御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、この議会中に、条例に基づきます施行規則、それから補助金交付要綱、交付基準などを

お渡しできるのではないかというふうに思っております。よろしく申し上げます。

最後に上対馬高校との連携型中高一貫教育についてでございます。連携型中高一貫教育は中学校と高校がお互いの情報を交換しながら6年間を見通して生徒を育てていく取り組みであります。対馬上地区の生徒数減少に伴い、県教育委員会の基本的な考え方、地域やPTAからの要望などを受け、対馬市教育委員会がまとめ役となって、平成26年度から上対馬高校、比田勝中学校、佐須奈中学校の3校による連携型中高一貫教育を推進してまいります。この連携による効果は次の3つであります。

1つ、中高の相互理解によりそれぞれの教育力が高まり、学力の向上が期待できます。2つ、生徒への理解が深まり、個々の生徒へのきめ細かい指導ができます。3つ、生徒交流の機会がふえ、刺激し合うことで社会性が身につくと思えます。

今後においても長崎県と連携し、上対馬高校の存続を期待しているところであります。

具体的な取り組み内容は大きく3つに分類できます。

1つは6年間を見通して教科指導、進路指導、生徒指導を系統立てて実践し、指導の効率を高めていく取り組みです。2つ目は中高教員の相互乗り入れ事業や、中学校共通到達度テスト等による学力向上へ向けての取り組みです。3つ目は中高の合同行事や部活動合同練習等による生徒間の交流であります。

対馬市教育委員会では、これらの活動を通じて中高連携がスムーズで深いものになるよう積極的に支援をしております。

中高連携を推進する最上部組織として、教育長を会長に、各学校長、PTA会長や区長等からなる推進協議会を立ち上げました。学校保護者、地域それぞれの立場からの御意見や考えをいただき、連携のあり方を協議する重要な会議でございます。推進協議会を受けて具現化を図るための校長協議会、事務局会議についても教育委員会も参加して実態把握に努めたり、思いを伝えたりと活性化に努めております。

また、連携の具体的な実践に必要な人的配置や活動に必要な移動手段、物品の確保などの環境の整備についても可能な限り尽力しているところでございます。地域の皆さんにも取り組みについて理解をしていただき、協力をお願いすることも連携を推進する上で重要なことです。そのために、広報活動として中高連携だよりを2月に発行をいたしました。これについては今後も定期的に発行する予定です。また、広報つしまでも取り組みを紹介してまいります。

対馬市教育委員会では中高一貫教育によりみずから学び、心豊かでたくましく郷土に誇りを持ち、自己実現に積極的に取り組む生徒の育成を目指しております。

3校の連携により教育の質の向上を図り、元気な学校、元気な地域づくりにつなげたいと考えております。御理解と御支援をいただきますようお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 御丁寧な御答弁をいただきまして、時間があと残り20分でありますが整理をしてみたいと思います。

市長の協働型市政への改革と創造への思いというのは、大体わかったような気がいたします。

北部の観光ルート整備と北部地域の空洞化ということで答弁をお願いいたしました。本当にですね、この観光ルートの上対馬比田勝の組織を立ち上げられてワークショップが行われて、私も最後は行きました。本当にまあ20名ぐらいの委員さんで構成をされているんですが、やはりそれぞれに活発な御意見が出され、本当にこう、対馬の北部の住民の方々だなという思いもいたしました。その中でやはり18万人もの観光客が来る中、ホテルの誘致が大事だろうと、宿泊施設が足りないということが20名の委員さんの一つの思いでした。これは本当に、まあ巖原のほうでもわかるようにですね、宿泊施設が足りないということで、これを早急に急いでいただければもっともっと観光客もふえ、またそれで地元の雇用もできるということだろうと思いますので、そこら辺を急いで整備をしていただきたいというふうに思います。

北部の地域の空洞化ということは、私はこれ、上対馬にとりましては比田勝港を中心とする観光ルートでありますから観光客が往来をするわけですが、隣の上県町の佐須奈にちょっと目を向けて見まして、やはりこの上県町の佐須奈というところが空洞化が広がっているんじゃないかなという気もいたしております。

また国道382号、仮称であります、大地トンネル1号もかなりのスピードでトンネルも進んでおります。28年度この完成を目指して県のほうもやっつけていかれるんだろうというふうに思います。

ここで、この国道を利用されるドライバーの方もふえると思うんです。で、この佐須奈の空洞化についてどのような取り組みをしたらいいのか、まあ市長の胸の内をしっかりと語っていただきたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目のホテルのお話がまずありました。これにつきましては、三宇田という一つのピンポイントに絞った場合のやり方として、自然公園法の規制の問題、これらについての協議を県とも当然進めておりますし、そして一つの方向性が、そんな長い時間かからない間に出てくるものと思っております。

それともう一点、ホテルの問題、直接的な、について、県とこれほどのような組み立てをしていけばよいかという話をずっとしております。今年度の県議会のほうで提案されるかなという段階まで、ある程度の詰めまできたところもあったんですけども、この3月議会ではちょっと時期尚早かもしれないと、制度的な部分のつくり込みに、まだ異論があるんじゃないかという部分も

指摘がありまして、それは見合わせておりますが、現時点においてそのような行政がやれるところのつくり込みというのを今やっている段階です。そういう中、私どもがイメージしているホテルというものから、若干変えていかないと、目先を、いけないのかなという話も内部的にはしてるところです。韓国のほうの方たちのお話を聞くにつけ、ホテルというよりもバンガローとかキャンプとか、通年を通じてキャンプをする国民だという話も聞いております。それらのことに向かってこちらが、僕らの今までの既成概念で物事をやってもお客に喜んでもらえないんじゃないかというようなこともあって、今しばらく時間をいただきたいなというふうに思っております。

それと、北部として佐須奈のお話がありました。佐須奈の問題につきまして、佐須奈地域の方々ともたしか2月2日だったと思いますが、山本議員もその場に参加していただいて、2時間半程度、佐須奈の公民館といいますが、あそこで話し合いも持ったところでありまして。で、行政が全てを物事を組み立てていく時代は終わったから、やはり市民の皆様方も大変なのはお互い大変なんだからやっぺいこうと。そういう中で行政は支援を幾らでもしていきますよと。皆さんの考えというのを明確にやっぺい出していただくことが、最終的にその地域が生き残っていくためには必要なんではないかというふうなお話をさせていただいておるところであります。

今まで佐須奈地域においてさまざまな公的な機関があったところでもありますけれども、それらが撤退をした段階で一気に過疎、疲弊が始まるというようなことではなくて、やはり自分たちの動き出しの中で地域をつくりこんでいくということの方向性でやっぺいけたらなというふうな話はそのときもさせていただいたところでもあります。

そのときに100名はお見えだったとたしかと思いますが、2時間半の会議、いろんな意見が、さまざまな意見が出ましたが、一定の理解をお互いがしてその日終わったというふうには思っております。

市民が考えていくっていう話の中で、この北部の観光リゾートイメージ図作成事業の中で、春田議員が4回目のワークショップに参加したよというお話がありました。そこで一定の埋立地の使い方とかいう方向が出たわけですし、それらを踏まえて私どももそれでいいのかどうかの1回、内部会議も持たないといけないとは思いますが、うちのほうで、一つの方向で、それがいいなって、そしたらほかの、もう将来的に、1回税を投入した場合、そう変えられないという状況の中で真剣に取り組んでいきたいと思っております。

そして国等の交付金とかさまざまなものが入ってきた段階において、私どもは市民が一生懸命考えていただいたものについては優先的にやっぺいしていきたいというふうな考え方で今後取り組んでいかせていただきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） よくこう、切りかえができたようにあります。

佐須奈の空洞化であります、やはり今、市長が言われましたように、市民協働でということでありましょう。やっぱり、私はちょっとテレビを見ましてですね、佐須奈の婦人会の方ですかね、寄っていかんねという、自分たちでつくったお店の中で、まあ寄っていかんね、語っていかんねということで、一生懸命やってあるんですから、やっぱりまちが活性化するように市のほうも助成助長をしてやってお願いをしたいと思います。

また、今度取り組みの中で地域マネージャー制度と集落支援員ということで、ここに施政方針でうたっておりますように、このことも十分使いながらやっていけば、もっともっとうち地域が活性化していくんじゃないかというふうに思いますので、その辺もよろしくお願いをしておきます。

時間がないので市長のほうを終わらして、教育長のほうに二、三点お尋ねいたします。

文化財についてはもう3回目であります。まあこれで終わろうかなというふうに思っていますが、教育長の、教育長が委嘱をされております委員さんですね、教育委員会に關係のある委員さん、公民館審議委員さん、社会教育委員さんあるいは文化財保護審議委員会、42名の、まあ体育協会を除けて42名の委員さんが今、教育長委嘱を受けられていると思うんですが、その人方で、この文化財を掘り起こすといいますか、まあ卓上の委員会だけじゃなくして、横たてのつながりをつくって文化財に足を運んで、ほんとにこう見てもらって勉強してもらって、で、42名ですから、2人、3人に声をかければすぐ広がるじゃないですか。そういうことを中心とした文化財の広め方というのを私は基本的に考えたらどうかなというふうに思うんですが、教育長、その辺はどうでしょう。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） ただいまの件につきましては、一昨年度ですかね、文化財審議委員の皆さんに、まあ1カ所、2カ所受け持ちしていただいて、CATVのつしまる通信の中で紹介を、現地の映像を交えながらですね、紹介をしていただきました。これについては私の前の前河合教育長も同じ思いでありましたので、ぜひまた今後ですね、途絶えることがないようにお願いをしていきたいというふうに考えております。

やはり現地に行って、そのやっぱり魅力を見てもらいながら説明をしていくということは、子供にとっても大人にとっても大変な勉強になりますのでできるだけ続けていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） どうも。まあそういう思いでありましたら、私も社会教育委員の1人でございますので、まあ卓上だけの委員会じゃなくして、やっぱりそういう現場に出ていつの委員会というの、広い勉強に皆さんなられるんじゃないかというふうに思いますので、

まあそこら辺を今後組み立てていただきたいなというふうに思います。

それと、この新年度から始まる子ども夢づくり基金であります。本当に教育長が申し上げましたように、きれいな項目が組み立てられそれなりにやっつけていかれるんだらうというふうに思うんですが、やはり今考えますと、きのう、おとといの協本議員が申し上げましたように、公園の子供たちが寝そべって遊べる場所がない、これは鹿、イノシシのふんで寝そべることができないという話で、柵をどうかということだったんですけど、そこら辺もですね、やっぱり夢づくり基金において、幾らからでもできるような方向性をつくっていただければなというふうに思います。活性化センターのする部分じゃなくて、やっぱり総合運動公園を基本的に考えていただきたいなというふうに思います。

それと、上地区連携型中高一貫でございますが、これ、私は本当に上の住民一人として、個人一人として、本当にいい組み立てだなというふうに、上校の久家校長先生とも話をしましてですね、本当にいい組み立てで子供たちも立派に成長してくれるのではないかなというふうに思います。

まあ初めてですから、これを組み立てたばかりなのでどういう結果が出るかというのは、また後ほど2年目、3年目が出てくると思いますので、そこら辺は改革しながらですね、本当に上にあってよかったなという高校にしてもらいたいというふうに思います。

それと、この上校では舟グローの練習がっております。これは大浦、河内地区の住民の方々が一生懸命こう努力をされて、まあ舟グローの継承もつながるでしょう。で、高校生にこれをしてあるんですが、これに中学3年生も入れての練習ということも今、聞いておりますので、これはもうやはりそれになれば地域もふえてくるなという気もしますので、こういうことから順次やっていってですね、本当に中高一貫だなということが広くわかるようにしていただければなというふうに思っております。

時間が足りない、足りないと言っておりましたが余りました。これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○市長（財部 能成君） 議長。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私、日にちを間違えまして、2月2日というふうに口で言ったみたいですが、12月2日の間違いでしたので申しわけありません。訂正させていただきます。

○議員（1番 春田 新一君） それじゃあもう一ついいですか。

○議長（作元 義文君） どうぞ。1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 終わりましたけど。

市長、今度、施政方針表明で「覚悟」という言葉が出てますね、本当に市民全体で、11年目

に向かって覚悟を持ってやっていかなければならないと思います。どうぞよろしくお願いします。  
ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩とします。再開は11時から行います。

午前10時47分休憩

午前11時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、7番、黒田昭雄君。

○議員（7番 黒田 昭雄君） 皆様、改めましておはようございます。質問に入ります前に一言申し上げます。

私の高度経済成長期の時代というのは中学、高校そして会社に入って10年ぐらいが非常に景気のよい時代で、何をしなくてもですね、何も考えなくてもいい時代、いい業績がありました。まだ印鑑をつく立場ではありませんでしたけども非常にいい時代だなあと、私もそういう立場になったときにそういう時代であればいいのになあと思いながら過ごしてきましたけども大変な時代になってまいりました。

当時、その当時の時代、今の金融のセミナーとかありますと7.2の法則、100万円貯金してたら10年間で2倍に資産がなるというですね、そういう時代、昭和55年ごろにありました。傍や今の時代、貯金を100万円しても1,000円か何百円の時代に今なっております。しかしながら、借金をしますとそうはまいりません。特に、先日、議案に乘りました延滞金の問題、これにつきましては複利ではありません。単利でありますけども14.6%、100万円ですね、滞納すれば1年間で14万円になります。大変な時代でありますけども、ぜひ今回、少なくなつたということで、少なくなつたということで延滞税のあぐらをかくなじゃなくて、元本、税のですね、ほうに突入しまして、何とか納税率のアップを図っていただきたい。そして、税金を完済をさせてもらってですね、市民の方に公的な施策の享受も受けさせてもらうようですね、特に、税務課についてだけでございますが、唯一収入を得る部署でございますので、力を込めて頑張っていたいただきたいなと思っております。

それでは通告に従いまして、3点質問させていただきます。

まず、1点目、公会計制度改革について。

今まで我々の先輩方は新しいものをどんどんつくってきたがこれからは再整備していく時代だ。今、対馬を見たときに、未来の子供たちに不健全な財政と朽ちゆくインフラ、公共施設を絶対に